

全体会午後の部Ⅱ

司会者 それではただ今より、全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。午後の部Ⅱの司会を担当させていただきます、藍住中学校3年のbb, bcです。よろしくお願いします。



後半は2本の意見発表があります。まずは、後半1本目の意見発表です。板野中学校2年、西口沙耶さん「障がい者だからなに？」です。本日、西口さんは、吹奏楽コンクー徳島県大会に参加のため、板野中学校3年、川西優芽さんが代読します。よろしくお願いします。

「障がい者だからなに？」

板野中学校 2年 西口 沙耶

私の周りには、障がいのある子に対して、「障がい児」と呼ぶ人がたくさんいます。私は、人権学習を学ぶ前は「障がい児」と呼ぶのには、別に悪いことだとは思っていませんでした。

ある時、私が「がい児」という言葉を使った時に、怒られました。けれど私はその時なぜ怒られたのか意味が分かりませんでした。

そのまま時が過ぎ、私が4・5年生になった時でした。総合学習という学習が1つ増え、みんなで人権について話し合い、差別や人権について学んでいきました。私は最初、興味津々でしたが、学習を重ねるごとに、だんだん「つまらない」「私には関係ないのに」と思うようになってしまい、次第に人権につ

いての関心がなくなっていました。

でもある日、先生が「障がい者問題」について話してくれました。私はその話を聞いて、ハッと気がつきました。あの時、怒られた意味が、やっと分かったのです。私が無気なく使っていた言葉が、どれだけ障がいのある人を傷つけていたのか。そして、「障がい」の本当の意味が……。それから私は、「がい児」なんていう言葉は使わないように心がけています。

私は、言葉だけじゃなく、自分の態度や行動が相手を傷つけてしまうこともあると思っています。以前、言葉に出さないだけで、表情や視線、態度からも自分の心が相手に伝わってしまう経験をしました。



私がスーパーに買い物に行った時、車いすに乗って買い物をしている人がいました。その人は、買いたい物に座ったままでは商品を取ることができず、とても困って周りの人に助けを求めていました。私は、助けようと思ったのですが、いざ行動に移すと足がすくんでしまいました。困っている人を助けることができず、様子を見ているだけの自分に、何とも言えないモヤモヤした気持ちになりました。私はそのことを、今でもすごく後悔しています。悔しくて、悔しくて、たまりませんでした。自分の心の弱さに気づき、それを乗り越えようと思いました。

しかし、自分の心の弱さに打ち勝つことは思った以上に難しく、小学校の時に行った支援学校との交流会のことです。私たちの班は、一緒にボーリングをして、お互いが楽しく遊

ぶことができました。障がいがある、ないに関係なく、一人の人間として心と心がふれあい、楽しい時間を過ごすことができたのです。

しかし、支援学校の子たちが帰ったあと、周りから「マジでキモいんですけど・・・」「手をつなぐとかありえない」などの声が聞こえてきました。私は、自分の心の弱さに気づき、乗り越えようと思ったはずなのに、その子たちには何も言えず、その場を何事もなかったかのように終わらせてしまいました。

見た目や話す言葉などで相手をこんな人だと決めつけ、相手が傷つくような言葉を発する人は、自分が相手よりはマシ、相手より上と偏見をもっているからだと思います。いくら勉強ができて、運動ができて、見た目やきれいな言葉を使っても、うわべだけの人間は心がよどみ、くすんでいます。例え、体のどこかに障がいがあり、一人でできないことがあったとしても、一日一日やるべきことを精一杯やる人は、心が輝いていると私は思います。

だから、私は自分の心に誓いました。これからは助ける。周りの人にどのように思われたり、言われたりしても、困っている人や傷ついて辛い思いをしている人を見たら、その人に寄り添い、助けよう。

そして、誰一人「障がい」やさまざまな人権問題で辛く悲しい思いをする人が、いなくなる社会をめざして。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、後半2本目の意見発表です。松茂中学校3年、清水未悠さん「家族の生き方から学んだこと」です。よろしくお祈りします。

家族の生き方から学んだこと

松茂中学校 3年 清水 未悠

私は、中学3年生になってから、進行性筋ジストロフィーという病気と闘っている川田

優也さんの生き方について学習しました。この学習で、川田さんの話を聞いたとき、私は川田さんのお母さんとお姉さんに、とても共感しました。

私は、母、父、弟、私の4人の家族で過ごしています。その家族の中で、父と弟は体が弱いのです。そのため、父、弟を支えている母と、川田さんを支えている川田さんのお母さんが重なって見えました。



私の父は、幼い頃から身体が弱く、よく入院を繰り返していたそうです。父は、産まれたときから、心臓に穴が空いていて、手術に耐えられる歳まで、成長してから手術をしました。私がそのことを知ったのは最近です。それまで父は、私と弟に手術の跡を「悪者をやっつけたときにできたんだ」と言っていました。私と弟は、そのことを信じていました。ですが、私が5年生の時に本当のことを話してくれました。そして、父には妹がいたことも話してくれました。これを聞いたとき、すごく驚きました。私は、父が弟(叔父)との二人兄弟だと聞いていたからです。

父の妹は産まれてすぐに死んでしまったそうです。父は私に泣きながら話してくれました。その時、父はお酒を飲んでいたので、涙腺が緩かったのかもしれませんが、あんな姿の父を見たのは生まれて初めてでした。その後川田さんの学習をしたので、生命の大切さについて、より考えが深まりました。

そして、弟です。弟は、父よりもつらいと思います。父は手術をして治りましたが、弟は治らないのです。弟は生まれつき、ぜんそ

くを持っています。これだけなら、たくさんいると思います。私もぜんそくを持っています。ですが、弟はその上に、けいれんを起こしたり、ひきつけを起こして倒れたりします。弟が倒れるのは年に1回あるかないかなのですが、初めて倒れたときはすごく驚きました。その時、弟は小学校3年だったのですが、学校で授業をしているときに倒れたようです。弟はその後病院に行って、いろいろな検査をしました。

1度目に倒れたとき、私はそばにいなかったのですが、2度目の時は、私のすぐ前で倒れました。その時、家にいたのは弟と私だけでした。父は仕事で、母は買い物に出ていました。私が少し目を離したすきに、倒れてしまいました。私は初めて目の前で倒れたので、すごく不安になり、足がすくんでしまいました。ですが、すぐ後に、お母さんが帰ってきてくれ、病院に行きました。その時、私は自分を責めました。「なんで、あのとき何もできなかったのか…。」「母じゃなくて私が買い物に行っていれば…」など、いろいろ考えていました。

その時、祖母に言われた言葉が今でも胸に残っています。私は、その言葉を聞いて、今一番つらくて一番苦しいのは弟なんだから、私は自分を責めるのをやめ、弟を励まそうと思いました。弟の検査結果は教えてくれませんでした。今でも弟は薬を飲んでいます。

そして、そんな父や弟を支えているのが母です。母は弟の病院の付き添いや習い事の送り迎えなどをしてれています。母は、家族の中で一番疲れているはずなのに、弱音を吐かずに毎日頑張っているのです。すごいと思います。母は仕事をしながら、食事の準備や掃除、その他もろもろの家事を一人でこなしています。その上、私や弟の相談事も聞いてくれて、すごく頼りになる存在です。私はそんな母が大好きで尊敬しています。将来は母みたいなになりたいと思っています。

私が家族から学んだ生き方は、父から、何事にもめげずに前向きに進んでいくこと。弟からは、どんな病気になっても、自分のやりたいことを全力でやるということ。母からは、強く、たくましく、生きることです。私は家族から、いろいろな夢や希望をもらっています。今度は私が返す番だと思っています。だから、きちんと高校に合格し、働いて親孝行したいと思っています。

私の家族と同じように、この学校にも、家族の誰かの身体が弱い人もいます。でも前向きにいけば、何か良いことがあると思います。下を向いて、うなだれるよりも、前を向いて進んでいくことが大切だと思います。

私の家族は、何があってもポジティブです。どんな家族にも困難なことや、悩んでいることはあると思います。そういったときには、家族で相談し合うと心の距離が近くなるし、もっと仲良くなれます。私の家族での決め事は、「悩み事は相談する」です。家族での悩み事があるときは、言ってみればいいと思います。

私は、中学3年生で取り組んだ川田優也さんの生き方に学ぶ人権学習から、家族のことを深く考えることができました。家族について学んだ、この学習から、人権学習は、他者への信頼と尊敬、そして感謝の心を育てていく学習なのだと思えるようになりました。私は、様々な困難を乗り越えてきた父や母の生き方をお手本として、家族への信頼と尊敬、感謝の心を大切に、自分の将来の目標に向かって中学校生活を充実したものにしていきたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思

います。また、前半で発言しきれていない人や、付け加えるような内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、ぜひ発表してください。なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、氏名を言ってから発表してください。それではよろしくをお願いします。



名和中 1年 a u 私は、「障がい者だからなに？」という意見発表で、障がい者が困っているところをあまり見たことがないんですけど、もし私は障がい者が困っていたとしても、勇気がなくて助けてあげられないかもしれないと思いました。でも、もし困っている人がいたら、優しく接したり、助けてあげたりしたいと思いました。

大麻中 2年 s 僕も「障がい者だからなに？」という意見発表で、あまり障がい者については何も関心がなかったんですけど、障がい者問題の授業をして、そこには溝があるとわかり、これからは障がい者問題のことを真剣に取り組んでいきたいと思いました。

中山中 1年 a p 私は、「家族の生き方から学んだこと」で、私の家族は大きな病気をしたこともなく、普通に平凡です。清水さんの家族は、いろいろ病気があるけど、誰が病気であっても支え合って生きていて、それを行動に移したりすることで、何事にも負けずに進んでいけると思いました。

中山中 1年 b d 私は、「家族の生き方から学んだこと」で、自分の家族は、妹のこと

で困難なことや悩んでいることがあります。それで、けんかになったりするので、ちゃんと冷静になって、相談し合いたいと思ったし、お母さんも妹のことで苦労しているので、感謝したいと思いました。

名和中 1年 a s 私は、「家族の生き方から学んだこと」で、清水さんの家族は、お父さんと弟が病気がちだけど、きちんと家族で協力して、何があってもポジティブで、悩み事を相談すると、きちんと協力ができていて、いいなと思いました。

屋島中 3年 t 障がい者への偏見や差別について、よく町中で点字ブロックがありますが、そこに自転車が置かれているのを見かけます。ちょっと前は思わなかったけど、中学1年の時に、車椅子体験やアイマスク体験で、学校の階段とかを友達に付き添ってもらって、降りたり昇ったりする体験をしました。すごく怖くて、障がいのある人の気持ちが少し分かりました。それをふまえて、点字ブロックの上に自転車のある光景を見ると、やっぱり自分も含めて、周りの人はまだ、障がいのある人に対する差別や偏見があると思うので、障がいのない自分自身のちょっとした優越感をなくすことが、障がいのある人に対する差別や偏見をなくすことにつながると思います。

名和中 3年 b e 私は、「障がい者だからなに？」に、すごく共感できました。私のおばさんは、耳が聞こえません。おばさんは、耳が聞こえないだけで、あとはみんなと何ひとつ変わらないと言っていたことを思い出しました。私は、ただひとつ違うところがあるだけなのに、なんで「がい児」など、他の呼び方で呼ぶのかなと思いました。それは、すごくおかしいなと思いました。それから、困っている人がいたら、たくさん助けたいと思

いました。

藍住中 2年 a i 僕は友達に筋肉が弱くて体が不自由な子がいます。最初は、ちょっと避けていたけど、途中からはすごく仲が良くなり、今では大親友です。だから、僕はこの「障がい者だからなに？」の文章にすごく賛成できました。

名和中 2年 b f 私は、「家族の生き方から学んだこと」についての感想なんですけど、清水さんのお父さんや弟さんとか、清水さん自身もぜんそくがあったりして、体が弱いと言っていたんですけど、それに負けたりせずに、前を向いて進んでいこうと思っているところが、すごいなあと思いました。

中山中 1年 a l 自分は、「家族の生き方から学んだこと」で、清水さんと同じで、自分のおじいさんは、心臓に生活習慣の病気をもっていて、よく薬を取ってと頼まれますが、自分はそれを無視したり、拒否したりしていました。けど、自分の面倒くささより、おじいちゃんのえらさ（苦しさ）のほうが大きいと、この文章を読んで分かったので、これからは、自分ができることを探していきたいと思いました。

土庄中 3年 b g 私は、「障がい者だからなに？」という文章を読んで、よく親と病院に行って、障がい者の人たちを見て、「ああいう人たちがいるけど、だからって差別したり、そういうのは、したらあかんで。」と何回も言われているので、「マジでキモいんですけど。」って言っている人の気持ちが分からないです。

中山中 1年 b h 私は、小学校3年生の時に、自分の部落の行事があったときに、近くに障がいのある人がいて、その時、いきなり

その障がいのある人に手をつかまれて、「わー。」とか「気持ち悪い。」とか思ってしまったことがあります。でもこの作文を聞いて、そういうことは、してはいけないし、思っではいけないし、障がいのある人と接した時に、優しく接してあげようと思いました。

藍住中 1年 b i 私は、「障がい者だからなに？」という意見発表を聞いての感想です。周りから「障がい児」と呼ばれている子たち、本当は、障がい者として生まれたくなかったのに、障がい者とか、差別されるなんて、おかしいと思いました。だから、僕は、困っている人がいたら、手を差しのべてあげられる人になりたいと思いました。

大麻中 2年 m 「障がい者だからなに？」という作文を聞いての感想です。私の母は、知的障がい者をサポートするところで働いていて、小さいときにそこへ行って、障がいのある人を見て、なんか変だなとか怖いとか思ってしまった。そういう偏見をもつのをやめて、これからは、そういう人を応援していきたいなと思いました。



屋島中 3年 b j 私は、親戚の中に障がいのある人がいます。ひとりでは何もできなくて、いつも周りの人に助けられています。私は、その人のことを、会うたびに冷たい目で見ていました。でも、ある時、その人が「あまりみんなの負担になりたくないから、自分でがんばらなくちゃ。」と言っているのを聞いて、私は、この人を助けたいと思いました。

今まで、偏見とかをもっていた自分が恥ずかしくなりました。「障がい者だからなに？」という作文を聞いて、わたしも人の役に立ちたいと思いました。



屋島中 3年 a j 私は、お店とかに行くと、障がい者用の駐車スペースに、障がいのない人が普通に駐車しているのをよく見ます。それを見ると、やっぱりつらいし、私も障がいの体験をして、やっぱりつらかったし、何も見えないと怖いし、負担がすごく多いと思います。だから平気で、自分が駐めるところがないからって、障がい者用のスペースに駐めてしまうのはよくないことだと思うし、障がいの気持ちちゃんと考えてなくて、しっかり学びきれてないと思います。

松茂中 3年 b l 3年生になってから、学校に通うときに、ひとりの女のひとと毎日すれ違うんですけど、その人がいつも「おはようございます。」とあいさつをしてくれます。あいさつをする前や後は、ひとりでぶつぶつ、ぶつぶつしゃべっていて、「ああ、何なんだろうこの人」と思っていました。毎日あいさつをしてもらって、返したときに、すごい気持ちいいなあと思って、さっきまで思っていたことが恥ずかしくて、その人に対して失礼だと思ふようになりました。通学路に障がい者が通うところがあるんですけど、その人に会ったりしても、前までは「何なんだろうこの人」と思ったりしていました。そう思うのは、失礼だなと思うようになったので、障がいがあるから自分と違う人、おかしな人

と思うは、よくないなと思いました。

松茂中 3年 b 私は、「障がい者だからなに？」という作文を聞いて、一人のクラスメイトを思い出しました。その子は、特別支援学級に小学校の時から入っていて、ずっと休み時間も一人で、自分でできないことも一人でがんばってやろうとしているのを何度も見たけど、私はそれを手伝うことができなかったの、次からは手伝おうと思いました。

松茂中 3年 a z 私が「障がい者だからなに？」を聞いて思ったのは、他にもいるとは思いますが、眼鏡をかけている人は、目が不自由ということになると思うんです。私も授業中に眼鏡をかけることがあります。それは、障がい者の中に含まれないのかなと思って、それだったら、障がい者と眼鏡をかけている人の違いは何なんだろうと、疑問に思いました。

大山中 1年 b m 僕は、「障がい者だからなに？」で、僕は小学4年生の時「がい児」などの言葉をよく使って、先生に怒られました。今では、なぜそんな言葉を使ったのか信じられなくなりました。これからは「がい児」などの言葉をつかっている人を注意したり、「がい児」などの言葉を言われた人を助けられるようになりたいです。

屋島中 3年 b n 僕は、人はそれぞれ個性をもって生きていると思います。僕も目が悪くて眼鏡をかけているし、それも個性だと思います。その個性を馬鹿にするのは違うと思うし、僕も眼鏡をかけていることを馬鹿にされたことはないの、みんなが個性を認めて、助け合って生きていければいいのかなと思います。

大山中 1年 b o 僕は、小学校の時に障が

い者の方たち交流するときがあり、遊んだり手をつないだりするときに、正直、嫌だと思っていましたが、この文章を読んで、今日からそういう考え方を捨てて、生活していきたいと思いました。

中山中 1年 b p 「障がい者だからなに？」という文章について、私は小学校6年の時に、障がいのある人の人権について調べてポスターにするという授業があって、そのポスターの題名を「障がい者の人権について」というのにしていたら、「障がい者」と書くのではなくて、「障がいのある方」と書いたほうがいいよと言われて、その時は、なんでそうなのかなと思っていただけで、さっきの方の発表を聞いて、障がいのある方と私たちが一つだけ違うことがあるだけで、呼び方を変えるのはおかしいなと言う意見に納得できたし、障がいのある方に寄り添うような人になりたいと思いました。

松茂中 3年 b q 「家族の生き方から学んだこと」を聞いて、家族から学んだことであったり、信頼とか尊敬とかできることは、なかなかできないことだと思ったし、すごいなと思いました。

和光中 3年 b r 「家族の生き方から学んだこと」を聞いて、助け合える家族の温かさってすごくいいなと思いました。私の家は、両親が離婚しているので、お父さんがいません。母さんは、私が小6のときまで、ばりばり仕事をしていたんですけど、うつ病になってしまって、そこから膠原病こうげんびょうという病気になってしまいました。今までは、すごく料理も上手で前向きで、つらいことも笑い飛ばすような人でした。でも、病気になってから変わってしまって、マイナス思考で愚痴ばかり言います。私はそれを聞くのはつらいけど、他の人にそんな思いをさせるよりはましだと

思うから、自分が聞くことにしています。でも、あこがれだった母さんが、真逆の人になってしまったのを、まだ受け入れることができません。何か意見がある人は教えてください。

司会者 今の意見に対して、何か意見はありませんか。

松茂中 3年 b この前テレビで見たんですけど、うつになった人への対応は、もしネガティブなことを言っても、それをポジティブな言葉で返してあげたら、0（ゼロ）に回復すると思います。聞いたので、それを毎日続けていくと回復すると思います。

司会者 他に意見はありませんか。iさん何かありませんか。



パネリスト i さっきの話なんですけど、ポジティブに言い続けるのは、すごくいいと思うし、確かにその方法があると思うんですけど、どれくらい言ったらいいのかが、ちょっと疑問で、どれくらいやったら回復するのかなとか、ポジティブなことを毎日言い続けたとして、自分がどこで心が折れてしまうんだろうとか思ったときに、難しい、自分の中でも答えがでんところかなと思いました。僕は、両親がいて弟もいてという感じだし、さっき発表してくれた子の状況が分からないところがあるけど、助けになるというか、それこそその人がポジティブになれるようなことを、自分から変えていくのもひとつじゃないかと

思います。ただ言い続けることもいいと思うけど、僕はそこまで何十年とも言われたら、どこまでがまんでできるかわからんし、そこはわからないですけど、ちょっと思いました。



大麻中 2年 s 僕も「家族の生き方から学んだこと」の作文を聞いて、僕の母親もお父さんと離婚しています。お母さんは、僕がはじめられたことで、ずっと悩んでいて、今もうつ病になっています。いつも暗い言葉ばかり言っていて、ポジティブなことを言ったら怒り出すので、どうしたらいいのでしょうか。

板野中 1年 bs 4年生の時に僕は、支援学校と交流して手をつないだときに、少し嫌だなと思いました。中学1年になって手をつないだときに、何も思いませんでした。人それぞれに個性があるから、差別をせずにかきたいです。

司会者 大人の方でもいいので、何か意見はありませんか。

屋島中 3年 aj 先ほどの質問に対してなんですけど、お母さんのいいところを言ってあげて、「こんなところがいいから、続けられたらいいかな。」みたいな。ほめてあげることが大切にしたら、いいんじゃないかと思います。

屋島中 3年 t さっきの意見に続けて、自分も片親なんですけど、片親やけん、何かができんとか、別にそういうわけではないので、

自分がしている方法としては、自分自身ががんばる。勉強や部活で結果を出して喜んでもらう。それが一番喜んでくれるのかなと思います。

名和中 教員 先ほど障がいについての話とうつ病の家族があるということで、自分の思いというか、話をしたいと思います。障がいについては、改善がされないから障がいであって、本人の努力だけでは解決ができない。なので、社会の方でもいろんな支援があると思います。その人だけではなくて、人の心の問題で、心を変えていかないとバリアフリー、障がいのない状態にできないということで、いろんなところで、人権学習をみなさんもしていると思います。ただ、うつ病はあくまで病気であって、障がいのように回復できないというわけではないと思います。薬や治療で治っていくと信じてほしいと思います。そして、家族しかできないこともあると思います。ただ、みなさん、家族の方はお医者さんではありません。なので、治すことはできないかもしれませんが、支えることはできると思います。実際にうつ病というのは、心の風邪ということで、風邪を引いている人に「がんばれ。」と言ってもがんばれないから病気のわけなので、ネガティブなことも病気の特性だと思うので、受け止めるところはしっかりと家族で受け止めてあげてほしい。逆に、自分の負担になってしまうと、家族で悪い方向に行くかもしれないので、あまりがんばりすぎないで、社会の中でもサポートがあると思います。いろいろなところに相談したり、大人に頼ったりして、ヘルプを出してほしいなど、君たちがつぶれてしまわないようにしてほしい。一人の大人として思います。なかなかうつ病の人に「がんばれ。」とは言えないですけど、できることはしてほしいなと思います。

屋島中 3年 ay 「障がい者だからなに？」

で、私も似たような経験をしました。障がいのある人を笑っている人たちがいて、私は悪いなあと思っていました。そのことをお母さんに言うと、「なんで悪いと思ったら止めんの。」と言われました。そう言われて、なんで「笑うな」と言わなかったんだ、勇気がなかった、悪いなあ、とだけしか思っていなかった自分が急に恥ずかしくなってきました。でも、お母さんが言ってくれて、気づかされました。障がいがあっても私たちと同じ人間です。外見でかっこいい、かわいいと思うことはいいと思うけど、笑ったり、馬鹿にしたりすることは本当にダメだと思います。だから、これから自分が嫌だと思ふことは、しないようにしたいです。

名和中 1年 av さっきの質問で、家族のことで、少しでも寄り添うだけで気持ちが楽になると思うので、側についてあげると気持ちが軽くなると思いました。



大麻中 2年 aa 「障がい者だからなに？」という作文を聞いて、障がいというのかわからないけど、私は食べ物のアレルギーがけっこう多くて、学校の給食が食べられなくて、初めは、みんなに「なんで食べんの？」みたいな感じで、きつく言われたりして。そういうのがあってから、自分の欠点ではないけど、障がいじゃないけど、それを隠そうとして。他人と同じようにしたいとか、なんか自分が他人と違うことを隠したいと思うようになって。障がいがある人は他の人と違うけど、もう明らかにわかるというか、そういうの隠し

きれないし。やっぱりそういうのがきついついところがあるんじゃないかと思ったし、障がいがある人に対して自分も偏見の目を見たことがあったので、自分は最低だなと思いました。

吉成 そんなに自分を責める必要はないと思うのよ、他の人も。理由は、今まで私たちの身近なところに、いわゆる障がいのある子どもや障がいのある人が当たり前のように生活してきたかどうか、思い返してみる必要があると思うんよ。どう？ある？少なくとも私の身の回りには、障がいのある子、障がいのある人はいなかった、小・中学生の時も。例えば、昔でいう養護学校へ行ってた、今の支援学校へ行ってた、特殊学級へ入ってた、特別支援学級に入ってた。できるだけ、分けられて生活するようなシステムになってた。今もそういうのは、残っていると思う。一緒になりつつあるとはいえども、分けられているような気がするんよ。そしたらな、人間てな、変わったものを見たら、そちらに目が行く。で、変わっていたら、「えっ」て思うし、「わっ」て思うし、「いや〜」て思う、というもんやと思うんよ。そんなことない？それが今みんなの話の中で、いわゆる障がい者を対象に話をしているだけであって、例えば、今までにな、外国人を見たことがない、黒人や白人を見たことがない人が、目の前に、ポンと黒人や白人が出てきたら、やっぱり、「うっ」と引くのがたいていやと思うのよ。明らかに自分の今までの生活の中になかったような人が、目の前に現れてきたら、そうなるのは自然な話のような気がするのよ。だから、そこまで自分のことを、だから自分はダメなんだと思う必要は一切ないと思う。むしろ、さっき言ったように、分けられてきたというところに注目する必要があるような気がする。分けられてきたから、そうなったのであって、当たり前のように、いわゆる障がいのある友達がいて、当たり前のように共に生活をしてきたら、

そうはならんのではないかなという気がする。て、いうことは、明らかに治療が必要な、支援の必要とするような子や人は、もちろんそういう施設でいなければいけないように思うんだけど、「いや、一緒にできるやろ。一緒に学べるやろ。」という子まで分けてきたような気がする。そういう子らと一緒に学べるような環境をつくっていく発想とか運動とか活動をしていく必要があるような気がする。「仲良くしていきたいです。」とか「そういう目で見ないようにしていきたいです。」とかいう言葉が、なんか、気持ち悪いのよ。どうやっていいのかわからんのやけど、今までずっとみんなが話をしてきた中で、悪い言葉とは思わんのやけど、なんか、聞いてて居心地が悪いのよ。なんか、それってどうなの？と思ったりして聞いてきた、実は。じゃあ、それを一歩クリアするために、自分は、いわゆる障がいのある人や子どもたちと積極的に交流をする、行動を起こす。まず相手、人のことを知ることやと思って、そこへ飛び込んで行くんやというのがあるれば、変わっていきえると思うんやけど、頭の中で思っているうちでは、なんか、「それはちょっと違うんじゃないの。」と思ったりする。難しい話になってしまったのかもしれないやけど、一番初めの話に戻ると、僕は、そういう必要はないと思う。理解できてない人もいるだろうし、もしかしたら、ちょっと理解できる人もいるかもしれないけれども、意見をもらえるとありがたいかな。

土庄中 3年 b t 私は、学校の人権学習の企画で、障がい者施設に訪れる機会がありました。私は、行く前はとても不安でした。それは、障がいのある方への偏見と、普段通りに会話ができるかという心配があったからです。しかし、実際に行ってみると、障がいのある人とたくさん会話ができて楽しかったです。そして、実際に会ってみると、障がいの

ある方への偏見がなくなりました。



土庄中 3年 a q 私もさっきの考えが少し分かるような気がします。私も障がい者施設に行ったときに、障がい者の方と話をして、普通にしゃべっていたし、一緒に仕事をさせてもらったときに、たくさん「ここは、こうすんだよ。」と、普通に教えてもらったりして、普通に「一緒にいられるじゃん。」と、その時初めて思いました。だから、たぶん学校にもし障がいのある人がいても、一緒に勉強できたりすると思うので、だから、分けられたりするのをおかしいことだと思います。

パネリスト i さっきちょっとクラスが分けられるとか、学校が変わるとか、そういう話があったんですけど、今、僕は大学に行っていて、うちの大学は、障がい者にも力を入れているところ、障がい者に力を入れるという表現もおかしいんですけど、今こういう形で言います。僕は4年生なんですけど、一番慕っている人、親友といってもいい人がいます。その人は、生まれつき車椅子です。今は、地元が高知なので、高知で公務員をしています。僕は、その人としゃべっていると落ち着くし、一番相談事もしやすいし、何事においても、その人としゃべるし、飯も食うし、という人でした。やっぱり僕も大学に入ったときは、ぶっちゃけ車椅子の人とか、見たことがなかった。ましてや、あと、視覚とか聴覚もあるかもしれないけど、聴覚といっても全く聞こえないとか、視覚、全く見えないとかいう人が

何人かいます。僕の学年は、ほとんどそういうのを経験したことがない子ばかりだったので、ぶっちゃけ、すごい偏見だったり、それこそ悪口だったりとか、すごい多かったです。僕は、その人と初めて出会って、生活をしていくんですけど、その人一人暮らしです。車椅子です。で、「どこに住んでんの？」という話になって、「マンションの3階、エレベーターあるから OK。」みたいな。じゃ今度、「どうやって生活してるの？」という話になって、実際家に行ったら、めっちゃ段差あるんやで。たぶんみんなの部屋より段差があるような部屋。で、「これ、どうしてんの？」みたいな。家の中には3台の車椅子があり、トイレもあり、お風呂もあり、洗濯機もあってなるんやけど、しっかり一人で生活ができて、一人で買い物も行けるし、一人で料理できるし、料理めっちゃうまい、この人。映画見に行こうと思ったら、一人で電車に乗って、ぶう〜と行ったりとか。もちろん、学校も車椅子で行くし、車も運転できるし、実際会ってみて、俺が思っていた障がい者、車椅子に乗っている人のイメージがすごい変わりました。たぶんみんなは、経験してないことの方が多と思うし、さっき二人が障がい者施設に行ってみて、話してみたら話しやすかった。みたいなことを言ったけど、その通りだと思います。たぶん、しゃべってみないとわからんし、しゃべってから、「仲良くする」どころか決めてもええんかなと思うし、「仲良くしてほしい」とこあるけど、本当に僕は、いい人ばかりしか会ったことがないので「障がい者だからなに？」っていう題名やけど、本当にその通りです。なんか「障がい者」という言葉自体がいらんと思うし、普通に生活できてるし、みたいな、ていう感じですかね。

今、先生が「ぼそっ」と隣で言ったんですけど、「何が障がいなん？」っていう話です。みんなの書いているやつも、たぶん「がい

という字はひらがなだと思し、これから授業で出てくるのも「がい」は、ひらがなで出されるはずやけど、よく漢字で見ると、「がい」は「害がある」という「害」が使われたりするんやけど、実際そうじゃなくて、ひらがな表記がたぶん今は多いと思う。これはなんでかっていうのも、知ってる人もいれば知らん人もいると思うから、ちょっと考えてほしいかなって思いました。



和光中 教員 うちの生徒、二人言うたんで言います。今話が続いて、障がいのある人の話をします。僕も大学3年生のときに筋ジストロフィー、筋肉の病気で首から下が自分で動かせない人の介護をボランティアでしました。最初の気持ちは、障がいのある人の介護をするって「かっこええやん。」て自己満足です。障がいのある人と付き合うって、「なんか自分がええことしてるやん。」ていう自己満足から始まりました。自己満足で2年間は続かないんですよ。腹立つこともあるんですよ、障がいのある人と付き合っていると。ご飯を自分で食べられないので、食べさせるんですけど、僕も腹減ってるんです。腹が減ってるのにその人に食べさせるんです。それって腹立ちませんか？夜中に起こされるんですよ、寝てるのに。「トイレ行きたい。」って、腹立ちませんか？最初は腹立たないんですけど、だんだん腹立つんですよ。「眠たいのに、うっとうしいな。」って。でも、その時気づきました。「あっ、これが付き合うってことだな。」って。障がいがあるとなかろうと、人と付き合うとき、腹が減ってるときに、ご飯が食べれなかった

ら、その人に対して腹立つだろうし、夜中に起こされたら、腹立つし。最初は、自己満足から始めたボランティアだったんですけど、だんだん付き合いの中で慣れてきました。それがほんまの付き合いやなと思いました。差別というのは、その人の車椅子の後ろから歩いていると、差別が見えます。今でも覚えています。その人は、電動車椅子なので、自分で動かすんですよ。こうやって、首で動かすんですけど、ここにレバーがあって。で、僕は、後ろからついて行くんですけど、人って前から来るでしょ。人の顔が変わるんですよ。「あっ、これが差別。」変わらない人もいます、その人を見て。「ああ、これが差別なんや。」っていうのも間接的ですけど、体験をしました。そういうのが障がいのある人への差別です。

二つ目、話したいって思ったのは、「障がいってなんやろ？」って話があったんですけど、「障がい」って、「どっち側にあります？」「相手？ 障がいのある人？」「僕ら？」どっちでしょう。僕は「僕ら」やと思っています。今、「バリアフリー」っていう言葉を使った先生がいるんですけど、「バリア」って自分でつくってて、このバリアを下ろすか上げるかは、自分次第ですよ。そういうところが、君らにも考えてほしいなと思います。最後、うちの生徒も話したので、うつ病の話です。うちの義理の母親がうつ病になりました。半年付き合いました。ほんまにえらいですよ。だから、なかなか解決策としては見えませんが、たぶん徳島の子もお話ししましたが、うちの生徒もそうですけど、「のんびりやらな」としか言えません。うちの義理の母親も先が全く見えなくて、入院をしています。治るのはいつやろ。なので、君らがもし、友達とか自分の近い人がなったとき、のんびりやるっちゃうことしか、僕はアドバイスできんなあって思いました。長くなりましたが、ありがとうございました。

名和中 3年 bu こういうところで言うのはおかしいかもしれないんですけど、私たちは、この地域に生まれただけで地区学習会をしていて、なんか私たちが昔部落差別を受けていたからといって、私たちだけが差別について学習しても意味がないのに、周りの人たちの人権学習は少なくて、それが差別じゃないのかなと思いました。

中山中 1年 a l 「障がい者だからなに？」で、自分のひいおばあちゃんは、足が悪いので、ケアハウスに通っています。そのケアハウスには、体のいろいろなところが悪い人がいっぱいいて、最初は、あまり行きたくないなと思っていたけど、行ったら、足やいろいろなところが悪い人は、料理ができたり、裁縫ができたり、自分とは違う何かをもっていて、それがいいなと思いました。だから、見た目で人を判断している人がいたら、ちゃんと中身を見て、そういうことを決めてほしいなと思いました。



司会者 もうすぐ時間がきてしまうんですが、この機会に何か意見がある人はいませんか。

大麻中 2年 a q さっきの吉成さんの話を聞いて、みんな普通に同じで変わらない人なのに、自分とちょっと違うかったり、ちょっと違う人を見ただけで、隠したり、分けたり、自分と違うからって、距離を置くようなことは、普通におかしいと思うし、分ける必要も全然ないなと思いました。

上板中 教員 大人なので言わせてください。

この2月の話です。テニスの試合がありまして、引率して行って帰り際、ものすごく寒いところでじっといたので体が冷えて、ラーメンでも食べて帰ろうと、人気のラーメン店に行きました。夕方の5時近くになっていたの、非常に混み合っていました。そこで、私を追い抜いて電動車椅子の人がすう〜っと行ったんです。バリアフリーの店です。入り口までは行けますが、扉が開かないんです。車椅子の右手が扉に届きません。左手は見た感じ不自由です。左手で開けて、右手に持ち替えて開けるようにできているんだろうなあと頭の中では想像しました。私がじゃあどうするべきか、想像できますよね。私が見てるんだから、僕がするしかないですよ。行って、何も声をかけずにすっと扉を開けて、「どうぞ」って言いました。そしたら、軽く頭を下げて、中に入って行きました。今度は中に入ると、非常にまた厳しいんですよ。車椅子の入るスペースが中にはない。どうするんでしょうね。僕、どうしたらいいですか？考えますよね。僕、どうしよう。店内には、前に3組くらい待ってたのかな。よく台の上に名前を書くものあって、名前を書いておくと、次の人が呼び出されるという。その人、一人で来てます。台は上にあります。書けません。届きません。書けないです。けど、自分の名前だけ書いて、次の人書くという、卑怯な気がしますよね。私、ラーメン食べたいですけど、この人押しのけて、先に食べるっていうことはできないので、こうしました。台から紙を取り出して、「ここ名前書くんですが、お名前教えてくださいませんか。」と聞きました。そうしたらもう一つ困ったことが怒り起こったんです。その人しゃべれない。これは、まずい。どうしよう。「う〜ん」で。そこで二人で目を合わせて、考えてしまいました。そうしたら、そういう場面が多々あるんでしょうね、スマホを取り出して、スマホでいじっ

て、これですって、見せてくれました。うお〜・・・、そういうことにも使えるんだと思いつつ、文明や科学が進めば、いろんな障がいというのは、一つずつクリアしていくんやなあと思いつつ、そういうスマホの使い方もあるんやなというのが、非常によく分かった事例で。ああ、そうなんだと思いつつ、それで名前を教えてもらって書いて、「これでよろしいか。」って、返事されて、たぶんその人も僕に気を遣ってくれたと思うんです。しゃべれないんですけど、くぐもった声で、たぶんですよ、「ううっ」という声だったのですが、僕は「ありがとう。」という言葉に受け取りました。そういうふうに、僕は、何でできるかっていうたら、わかりません。ただ、ラーメンを食べただけかもしれない。早く、寒かったの。その人を押しよけていけないから、その人が早く食べられたらいいなというつもりで言ったかもしれないし、わかりませんが。いろんなことは、いろんな気持ちとかで、乗り越えられるんやなということが分かったことです。おいしいラーメンを食べました。以上です。



土庄中 2年 b v 僕は、去年 ADHD という障がいについて学習しました。ADHD というのは、一つのことに集中するみたいなことがあるんですけど、その障がいをもっている人の中には、有名なマイケル・フェルプスさんやマイケル・ジョーダンさんなど、活躍している人がいるので、僕は、見た目だけで判断するのではなくて、一人の人として見ることをこれからも心がけていきたいと思いま

す。



土庄中 2年 x 「家族の生き方から学んだこと」の感想で、私の父親の顔が思い浮かびました。私のお母さんは、病気で亡くなっていて、お父さんしかいません。なので、お父さんに対して、私たちの周りのことは、すべて叔母に任せきりだと、姉といつか愚痴ったことがあります。けれど、そんなことはなくて、お父さんは、本当に私たちのことを考えているので、元気な姿を見せて、感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

司会者 そろそろ時間が来るので、あと一人ぐらいにしたいと思います。最後に言いたい人はいませんか。

屋島中 3年 a j 私は、人助けにはそんなに理由はいらないと思います。それが気まぐれでも何でも、人助けをしたことには変わりないし、感謝をされて、いいことをしたのには変わりなくて、理由を考えずに、すぐに行動に移れる人は、本当に素敵だなと思います。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午後の部を終了したいと思います。みなさん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題をさらに深く考え、各学校に持ち帰ってください。

それでは、全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございましたー！

それでは、このあと引き続いて、閉会行事にうつらせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。

